

チャイルド・ファンド・アライアンス 女性と子どもの権利に関するワ ールド・インデックス2024

フォーカス: 未来への権利に関する子どもたちの声

EXECUTIVE SUMMARY



チャイルド・ファンド・アライアンスについて

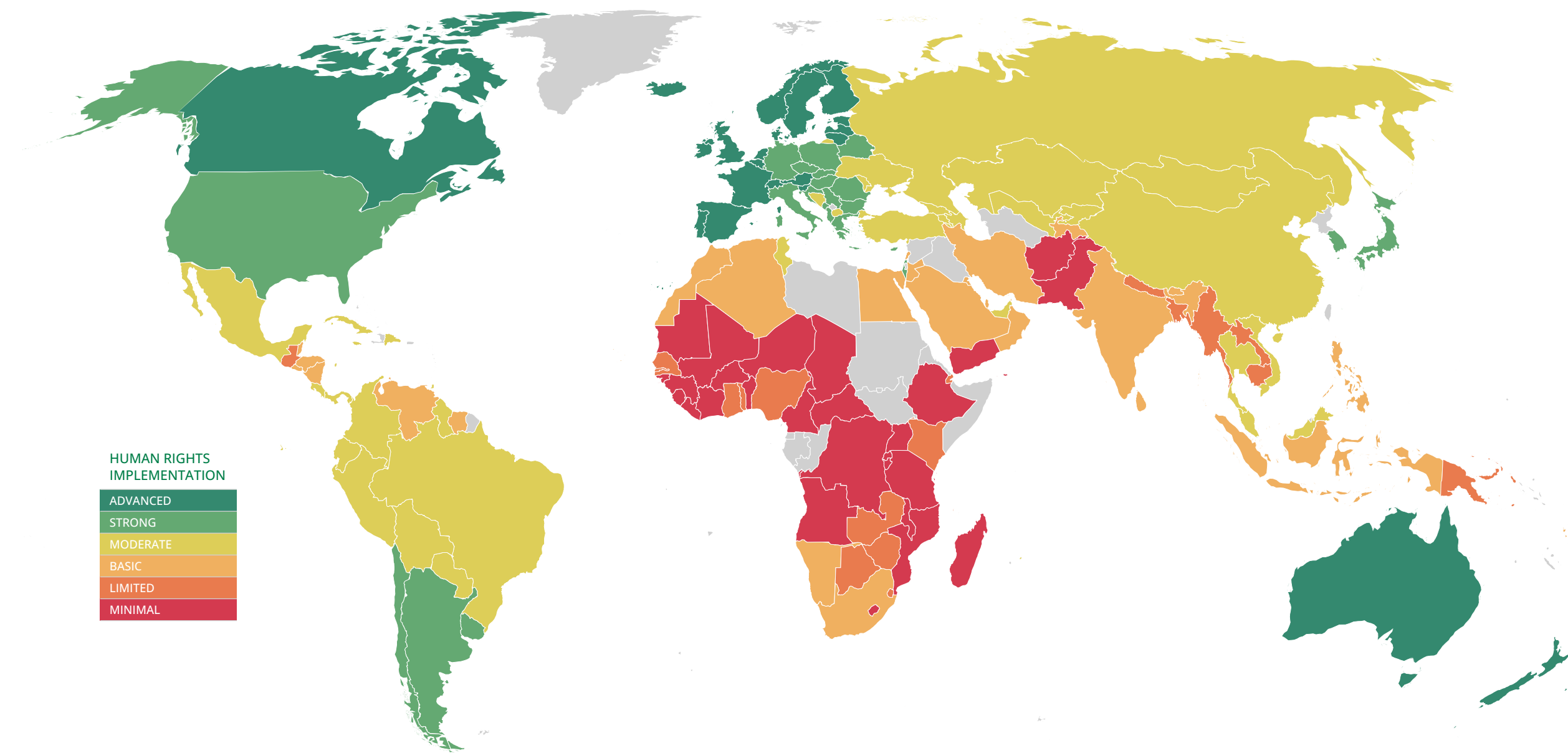
チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもに焦点を当てた11の開発・人道支援団体からなる世界的ネットワークであり、70カ国以上で約3,000万人の子どもたちやその家族の支援を行っています。メンバー団体は、子どもたちに対する暴力や搾取をなくするために活動し、緊急時や災害時に専門知識を提供し、子どもたちやそのコミュニティへの有害な影響を和らげ、子どもたち、家族、コミュニティが永続的な変化を生み出すよう取り組んでいます。私たちの80年以上にわたる経験、活動、リソース、革新性、専門知識は、世界中の子どもたちとその家族の生活を変えるための強力な力となっています。

ワールド・インデックスとは？

「ワールド・インデックス」は、チャイルド・ファンド・アライアンスの主要な報告書です。以前は「WeWorld Index」という名称で、チャイルド・ファンド・アライアンスのイタリアのメンバー団体であるWeWorldが2015年から毎年発行していました。この指数は、女性と子どもの権利の向上、行使、侵害を評価することで、世界中の女性と子どもの生活状況を測定しています。

報告書は4つの章で構成されています：

- ▶ **理論的枠組み**：この章では、「人権ベースのアプローチ」と能力の概念を参照しながら、報告書全体の基盤となる理論的枠組みについて概説しています。
- ▶ **指数の結果と世界ランキング**：この章では、女性と子どもの人権の状況に基づいて、指数の結果と各国の世界ランキングを示しています。データ、世界地図、図（インフォグラフィック）、表が含まれます。
- ▶ **中心テーマ**：2024年版のワールド・インデックスでは、特に、子ども、若者世代の「未来への権利」に焦点を当てています。チャイルド・ファンド・アライアンスは、若い世代や新しい世代が進まなければならない複雑な社会状況を分析し、それに対処するためのツールとして、「未来への権利」についての理解を深め、明確に



してきました。報告書のこの章には、オリジナルのデータとともに、41カ国の1万人の子どもと青年の声が反映されています。また、チャイルド・ファンド・アライアンスの11カ国のメンバー団体が、子どもたちの権利を守るために実施した成功例も掲載されています。

- ▶ **提言**：最終章では、子どもの参加に焦点を当て、具体的なアクションを提言として提示しました。

ワールド・インデックスの目的

ワールド・インデックスは、アライアンスを構成する11のメンバー団体の多様で広範な専門知識を結集したものです。これは女

性と子どもの生活の幅広い領域における権利の状況を分析するための包括的なツールで、様々な視点から共有されるものです。具体的には、以下のように捉えることができます：

- ▶ **知識としてのツール**：この報告書は、混合研究法による調査を通して、権利侵害の根本原因を明らかにして、世界中の女性と子どもの幸福度を向上させるために不可欠な要因を浮き彫りにしています。この報告書は、個人のニーズ、願望、権利の複雑さを考慮する総合的な視点を採用していて、さらに、世界的な子どもへの調査により、複合的差別をとらえるレベルの細分化が可能になっています。

- ▶ **アドボカシーと政策のためのツール**：エビデンスとデータに基づいたアプローチに基づき、緊急に取り組むが必要な分野を特定します。具体的な最終提言とともに、各国の現状を把握することができます。
- ▶ **啓発ツール**：この報告書は、国レベルでも世界レベルでも、女性と子どもの権利の現状について、一般市民、メディア、政策立案者に情報を提供する役割を果たします。この報告書は、専門家のためだけでなく、市民社会を含む、より幅広い読者とのコミュニケーションを目的として作成されています。

2024年の女性と子どもの権利に関する世界ランキング：

ワールド・インデックスは、女性と子どもの権利の世界的な実施状況の評価に関連する30の指標からなる総合指標です。この指数は、権利の実施度合いに基づいて、降順に並べ替えられた国々の包括的な世界ランキングを提供するものです。WeWorldが開発し、WeWorld Index 2015で導入した最初の調査方法は、WeWorld Index 2022で完成しました。この調査方法は、さらなる処理を可能にします。総合指数は、3つのサブ指数（生活状況、子ども、女性）の集約の結果であり、サブ指数はそれぞれ5つの側面から構成され、合計15の面から構成

されます。各面は2つの指標で構成され、合計30になります。

このような調査方法により、4つの世界ランキング（総合指数、生活状況のサブ指数、子どものサブ指数、女性の指数）、地理的地域別ランキング、15の面のランキング、各国のプロファイルを得ることができます。

ワールド・インデックス2024のハイライト:



- ▶ ワールド・インデックス 2024は、157カ国を対象に、女性と子どもの人権の実施状況を評価しています。
- ▶ 2023年の時点で、子どもの3人に1人、女性の4人に1人以上が、人権の実施状況が限定的または最小限の国で暮らしています。
- ▶ 現在のペースでは、ワールド・インデックスが評価した権利がすべての国で完全に実施されるのを女性と子どもが目当てにするには、113年かかるでしょう。
- ▶ 情報やWASH(水、衛生設備、トイレ)サービスへのアクセスには改善が見られるものの、2015年に指数の算出を開始した当時と比べると、現在の女性と子どもが暮らす状況は、民主的で安全とは言いがたいです。
- ▶ 子どもたちの健康には大きな進展がありましたが、教育の権利は2020年以降停滞しています。世界的なCOVID-19の流行による混乱が原因と考えられます。
- ▶ 女性の教育水準と意思決定への参加は上昇傾向にあります。しかし、女性は依然として世界的に最も脆弱で阻害された社会集団で、人権侵害の可能性が最も高いです。

フォーカス: 「未来への権利」に関する 子どもたちの声

「未来への権利」について理解することは、様々なことをより深く理解するための枠組みとして役立ちます。「未来への権利」とは、現在と未来の個人とコミュニティにとって、特に子どもと若者が、成長、幸福、発達のための持続可能で公平な機会が保証される世界に住み、そこで貢献するものとなる固有の権利と定義することができます。この概念は、若い世代と未来の世代が直面する、複雑な課題を総合的に検討することを促すものです。

未来への権利とは、必ずしもそれを本格的な権利として認めることを意味するものではなく、むしろ新たな内省を促すことを目的としています。それは、現在と未来を新しい視点で見つめ、子どもたちや若者が自分たちの未来を積極的に形成できるようにすることを意味します。また、彼らのニーズや願望が複雑で多面的であることを認めることも含まれます。

このコンセプトは扇動的なものを意図しているのではなく、人権の実現と社会的責任の重要な側面に焦点を当てるよう呼びかけるものです。未来への権利に取り組むには、後世に伝えるものという観点から考え、新たな社会的協定を確立する必要があります。

未来への権利についての理解を深めるため、私たちは開発政策、人権、子どもの権利に関する国際的な文献や法律を調査しました。この調査から、私たちは人権と子どもの権利に基づくアプローチをふまえ、1) 持続可能な開発、2) 未来世代への責任、3) 能力、4) 向上心、5) 子どもの参加の5つの重要な要素を特定しました。

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもと若者の人権を向上させ、保護し、子どもたちが積極的に参加することで、ポジティブ

な変化を生み出すことに取り組んでいます。チャイルド・ファンドは、子どもたちを権利保持者として認識し、より良い未来を築くために不可欠な自分のニーズや願望の把握を子どもたち自身にもさせています。チャイルド・ファンド・アライアンスは、「ワールド・インデックス2024」において、子どもたちのニーズに対応した支援を行うため、子ども参加型の調査を実施しました。この世界的な調査では、貧困、紛争、気候変動、暴力、将来への夢などの問題について、41カ国の1万人の子どもと若者から意見を集めました。

本報告書では、これらの調査結果を紹介し、チャイルド・ファンド・アライアンスのメンバーによる成功例を紹介するとともに、若者たちの明るい未来を確保するための提言を行います。

調査方法全般について

- ▶ この調査は、統計的に子どもの人口を代表するサンプル数を確保することを目的としたものではなく、アライアンスの加盟団体や現地パートナー団体が実施するプロジェクトを通じて参加した、41カ国(アライアンスが活動する70カ国以上の中)の10歳から18歳の子どもと若者1万人以上が参加したものです。
- ▶ 対象国は、チャイルド・ファンド・アライアンスの活動地域であることに基づいて選ばれました。このデータは、国全体を代表するものではありません。
- ▶ この世界的調査は、多様な国と幅広い年齢層を対象としています。そのため、質問は特定の年齢層や文化的背景に合わせたものではなく、一般的なものです。このアプローチでは、個々の国の状況のニュアンスを掘り下げることができませんが、より広範なサンプルで比較可能な示唆を得ることができます。



主な結果

調査対象の子どもたちの状況

調査対象は41カ国の10歳から18歳の子どもたち1万人です。まず、彼らの社会的プロフィールをより明確にするためにいくつかの質問をしました。さまざまな背景、人生経験、状況を考慮して回答を分析することが目的です。その結果、以下のことが分かりました：

- ▶ 障がいのある子どもの7人に1人以上が、定期的に学校に通っていないと答えています。
- ▶ 中央・西アフリカでは、ほぼ3人に1人の子どもが定期的に学校に行っていないと答えています。
- ▶ ほぼ10人に1人の子どもが現在働いていると答えています。
- ▶ 食料不安は障がいのある子どもたちの間で劇的に増加し、障がいのない子どもたちの14%に比べ、4人に1人近く(23%)が影響を受けています。
- ▶ 10人に1人以上の子どもたちが、ふだん幸せを感じていません。中央・西アフリカでは、この数字は3人に1人以上にのぼります。
- ▶ 幸福度は、就学率と食料安全保障の両方と正の相関があり、定期的に学校に通い、毎食後に満腹感を得ている子どもは幸福度が高い傾向があることを示しています。

子どもと若者の権利の現状

続く2つ目のパートでは、子どもたちの現状、権利、彼らが直面する課題、権利侵害の事例、そして子どもたちの権利保護における大人の役割に焦点を当てました。以下は調査結果の一部です：

- ▶ 5人に1人以上の子どもたちが、自分たちの権利についての認識が弱いです。
- ▶ 男子は女子に比べて権利に対する認識が弱い傾向があります。
- ▶ 社会経済的地位の低い子どもたちの10人中3人近くが、自分たちの権利についての認識が弱いに対し、社会経済的地位の高い子どもたちの間では10人中2人近くが、自分たちの権利についての認識が弱いです。社会的に脆弱で疎外されていることは、子どもたちが自分たちを権利保持者であると認識することに悪影響を与えています。
- ▶ 10人中4人の子どもが、戦争や犯罪のために危険を感じていると答えています。
- ▶ ほぼ3人に1人の子どもが、大人は自分の意見を聞いてくれないと答えています。
- ▶ 4人に1人の子どもが、大人の言動が自分を嫌な気分だとさせていると答えています。
- ▶ 社会的アイデンティティにより複数の形態の差別を受けている子どもたちや、社会経済的に恵まれない背景を持つ子どもたちは、自分たちの権利が尊重され、実現されることがより困難になります。
- ▶ 子どもたちの4人に1人以上が、大人は自分たちの権利を十分に促進してくれないと考えています。

- ▶ 子どもたちの権利に対する認識と、大人たちによるこれらの権利の実際の促進との間には、正の相関関係が見られます。保護者が権利を効果的に認め、支持している環境で生活することは、権利保持者としての子どもの自己認識に大きく影響します。

未来を想像する

3つ目のパートでは、子どもたちの将来に対する認識、特に将来を思い描く力に焦点を当てました。子どもたちの恐れ、心配、不安、そして希望、期待、夢について掘り下げた質問がなされました。

- ▶ 子どもたちが将来について抱く3つの主な懸念は、失業、貧困、疫病です。
- ▶ 身近な大人が高いレベルで権利を促進していると感じている子どもは、一般的に将来の脅威に対する不安が少ないです。この相関関係は、親や教師、その他の権威ある人物など、責任のある大人に信頼を寄せている子どもは、より安全で安心できると感じていることを示唆しています。
- ▶ 日頃から幸福感を味わっていない子どもたちは、同世代の他の子どもたちと比べて、自分の将来についてより高いレベルの恐怖を表す傾向があります。
- ▶ 移民の背景を持つ子どもたち、障がいがある子どもたち、そして特に社会経済的地位の低い子どもたちは、同世代の他の子どもたちと比べて、将来に対する不安や否定的な感情をかなり高いレベルで表しています。このことは、度重なる差別の経験によって形成された彼らの現在の状況が、将来の状況を思い描き、改善しようとする彼らの能力に大きな影響を与えていることを示唆しています。
- ▶ 10人中3人の子どもが、結婚するか子どもを持つかを自由に決められないと考えています。

- ▶ マイノリティに属する子どもたちは、差別がなくなることに楽観的な期待を抱いてなく、将来、他人と異なる扱いを受けないと期待しているのは67.3%に過ぎないのに対し、非マイノリティの子どもたちは80.4%でした。

未来を形作る

最後のパートでは、子どもたち自身が、取り組むべき優先事項を特定し、子どもたちにとってより良い未来を確保するために大人が取るべき行動を特定するよう求められました。この段階は、子どもたちに直接声で伝え、彼らに証言をさせ、解決策を提案させ、将来への夢、恐れ、期待を表明させることで締めくくられました。

- ▶ 大人が取り組むべき最優先課題には、教育、保健とケアへのアクセス、基本的ニーズの充足、あらゆる形態の暴力、気候危機への取り組みが含まれます。
- ▶ 中央・西アフリカでは、家庭や地域から強制的に離別させられないようにすることを、より多くの子どもたちが優先事項として認識しています。
- ▶ 東アフリカと南アフリカでは、戦争や紛争に巻き込まれないことを優先事項とする子どもの割合が高いです。
- ▶ 東アジアおよび太平洋地域では、子どもたちが安全にインターネットを利用できるようにすること、安全な環境がつくられることの重要性を重視する傾向が顕著になっています。
- ▶ ラテンアメリカでは、リストアップされた取り組みのほとんどを優先事項として認識する子どもの割合が、全体的に増加しています。特筆すべきは、ラテンアメリカの子どもたちが、子どもへの暴力や虐待の防止を最優先事項としていることです。

- ▶ 優先事項の特定におけるこのような違いは、各地域の子どもたち固有の状況やニーズを認識し、それに対処することの重要性を強調しています。このような地域の優先事項に合わせて取り組みを調整することは、世界の子どもたちの幸福と将来の展望を効果的に向上させるために極めて重要です。

8,500件を超える自由記述による回答の分析から、子どもと青少年からの5つの優先的な要望が浮かび上がりました：

- ▶ 私たちの目標を達成するために、教育へのアクセスと教育の質を向上させてください。
- ▶ 暴力と差別から私たちを守ってください。
- ▶ 私たちの意見を聞き、耳を傾けてください。
- ▶ 私たちを理解し、尊重してください。
- ▶ 私たちを励まし、導き、支えてください。

VOICES FOR A
BRIGHTER FUTURE
voicesforabrighterfuture.com



提言

より体系的で意義のある、子どもと若者の参加が必要です

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもたちが直面する課題や将来への希望について、子どもたちとの世界的な調査をもとに、各国政府や国際社会に対して、子どもたちの声を真摯に受け止め、考慮するための一連の提言をまとめました。その目的は、子どもたちや若者の意見を聞き、参加させるためのメカニズムを強化し、彼ら独自の視点や具体的なニーズを考慮した、オープンで包括的な対話を促進することです。これには、子どもの参加を制度化するためのメカニズム、社会的弱者や社会から疎外されたグループに焦点を当てた特別な取り組み、子どもにやさしい情報の提供、子どもの保護原則の義務化、権利保持者である子どもをエンパワーメ

ントし、能力強化する取り組みなどの提言が含まれます。

この章では、「Joining Force」が提唱する子どもたちの参加に関する行動呼びかけにおける、私たち自身の役割も再スタートさせます。2017年以降、チャイルド・ファンド・アライアンスは、Joining Forceとして、他の5つの子ども支援団体と連携しています：プラン・インターナショナル、セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル、SOSチルドレン・ビレッジ・インターナショナル、Terre des Hommes International Federation、ワールド・ビジョン・インターナショナルです。私たちは共に、子どもと若者がテーブルにつ

き、権利保持者として彼らの生活に影響を与えるすべての事柄や決定に積極的かつ有意義に参加できるよう提唱しています。これには、権力の場において子どもたちが参加しやすい場を提供し、意思決定の前後に意見を求めるだけでなく、意思決定プロセス全体に参加できるようにすることが必要です。

ChldFund
Australia

ChldFund
New Zealand

ChldFund
Deutschland

ChldFund
International

ChldFund
Japan

ChldFund
Korea

barnfonden
Member of ChildFund

Children
Believe
Member of ChildFund Alliance

educo
Member of ChildFund Alliance

Un Enfant
par la Main
Ensemble, construisons leur avenir !!

we
world
Member of ChildFund Alliance

